



光（現和光建物総合管理）の発展に尽力。「人と人と考え、何事にも『信義』

いう。社是は「仕事と愛「己（自分自身）が知り、実行」を掲げ、自らが実いる。

体を見据え、IT化の促のため多くの活動に積極ス協会においても、IS齢者・障害者雇用支援への立ち上げに貢献した。11月には藍綬褒章を受広報活動の委員長に任命ルメンテナンスイーピンメンヒューマンフェア実開していた。

井孝次副会長、池永裕理事、益田亨治理事、木英二事務局長、塩貝次顧問が参加した。熊本市上下水道局を聞き、現状説明を受けた後、復旧する予定被災箇所の案内を受けた。熊本市では4月14日前後に調査に着手、京都および20政令指定都市への協力支援をかけて、総延長25.4kmの1次調査を実施。1次調査の結果をもとに、本復旧工事を実施するか否かの判断、復旧工事の数量、復旧工法の決定、災害査定用資料作成のため必要な情報得るために、協定に基づく加わる全国上下水道協力を受けて、2次調査の結果、塩ビ管で

進めている。古瀬会長と井孝次副会長、池永裕理事、益田亨治理事、木英二事務局長、塩貝次顧問が参加した。熊本市上下水道局を聞き、現状説明を受けた後、復旧する予定被災箇所の案内を受けた。熊本市では4月14日前後に調査に着手、京都および20政令指定都市への協力支援をかけて、総延長25.4kmの1次調査を実施。1次調査の結果をもとに、本復旧工事を実施するか否かの判断、復旧工事の数量、復旧工法の決定、災害査定用資料作成のため必要な情報得るために、協定に基づく加わる全国上下水道協力を受けて、2次調査の結果、塩ビ管で

は管のたるみによる勾配不良・蛇行、ヒューム管では破損、クラックによる被災を確認。総延長25.4kmに対し、52.3km、2.06%が被災していることが判った。本市では地震前に小口径のものが進められており、復旧計画として3km、2.06%が被災している状況であったが、それらの更生管は異常が

見つからず、復旧の必要が無く、更生管の耐震性が確認された。熊本市は、地下水が豊富でかつ地下水位も高く、従来から掘削深度2.5mを目標に開削工法と推進工法を区別しており、復旧計画としては350m程度を管更新で復旧するとしている。

新人・若手向け研修を開催 会員企業の社員育成支援

府建設業協会

(一社) 京都府建設業協会は24日、新入・若手社員フォローアップ研修

修を下京区内で開催した。会員企業に採用された1~2年目の社員を中心43人が参加した。技術者の高齢化や若年者の入職不足によって、技術・技能の伝承が困難な状況で入職した新入・若手社員が抱える不安感や企業の一員としての自覚を促す機会を作るため開催した。開会挨拶した協会の絹川委員長は、「建設企業の中には、ベテランと若手社員の間の中堅社員が抜ける年代構成の企業が多い。若手が気軽に問題を相談できず悩みを抱え込むケースがあり、若手育成を求める会員の声に押され今回の講習は、京都サンダーラーの田辺直子氏が講師を担当。参加者は、まず入社から現在までの経験をヒアリングシートに記入。5~6人のグループに分かれたワーキング形式で、記入したヒアリングシートを選びグループディスカッションを行った。



絹川委員長



講師を務めた田辺氏



24日開かれた新入・若手社員研修

